



## 平成22年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成22年8月6日

上場会社名 株式会社応用医学研究所 上場取引所 東  
 コード番号 2123 URL <http://www.oiken.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 紘 (TEL) 011(207)7001  
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長 (氏名) 渋谷 功 配当支払開始予定日 ー  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月12日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年9月期第3四半期の業績（平成21年10月1日～平成22年6月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年9月期第3四半期	1,946	△2.6	479	△23.2	476	△24.3	277	△21.6
21年9月期第3四半期	1,996	—	624	—	630	—	353	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年9月期第3四半期	84	00	—	—
21年9月期第3四半期	107	21	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
22年9月期第3四半期	3,398		2,570		75.6		778	86
21年9月期	3,397		2,372		69.8		718	86

(参考) 自己資本 22年9月期第3四半期 2,570百万円 21年9月期 2,372百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末	期末	合計			
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭		
21年9月期	—	—	12	00	—	—	12	00	24	00
22年9月期	—	—	12	00	—	—				
22年9月期(予想)							12	00	24	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

### 3. 平成22年9月期の業績予想（平成21年10月1日～平成22年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	2,544	△4.2	521	△32.6	509	△34.6	291	△32.4	88	38

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 3「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：無

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：無

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

22年9月期3Q	3,300,000株	21年9月期	3,300,000株
22年9月期3Q	57株	21年9月期	—株
22年9月期3Q	3,299,993株	21年9月期3Q	3,300,000株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ

「1. 当四半期の業績等に関する定性的情報（3）業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(第3四半期累計期間) .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間における製薬業界は、医薬品の特許切れによる減収リスク、所謂「2010年問題」に直面し、ジェネリック医薬品の台頭やコスト削減策としての製剤開発・生産拠点の海外移転や自社リソース活用等によるアウトソーシングの縮小等依然として業績改善策が継続されている状況にあると思われま

す。当社の属する医薬品分析のアウトソーシング市場は、多くの医薬品関連企業の業績改善策の一環として、開発テーマの絞込みによるアウトソーシングの発注方針の変更等の影響を受け厳しい受注環境が継続しております。

このような環境下で当社は品質保証事業におきまして、既存顧客からの受注はもとより、新規顧客の開拓に注力し、受注高の目標達成に努めると同時に、バイオ医薬品の試験受注に向けて技術的な整備を継続しております。

薬物動態事業におきましては、ジェネリック医薬品開発試験を受託するため、新医薬品開発企業のジェネリック開発部門、ジェネリック製薬企業への直接的な営業活動並びにCRO（医薬品開発受託機関）との連携による間接的な営業活動を行い、業績の拡大に向けて邁進しております。

当第3四半期累計期間の売上高は、品質保証事業の減収を薬物動態事業の増収で補い、ほぼ計画通りに推移致しました。コスト面につきまして売上原価、販売費及び一般管理費の抑制に努めた結果、営業利益、経常利益及び四半期純利益ともに計画を上回る結果となりました。

以上の結果、売上高1,946,034千円（前年同期比2.6%減）に対し、営業利益479,767千円（同23.2%減）、経常利益476,981千円（同24.3%減）、四半期純利益277,207千円（同21.6%減）となりました。各事業の状況は以下のとおりであります。

#### ①品質保証事業

品質保証事業を取り巻く厳しい受注環境の下、新規顧客の開拓、既存顧客の深耕に努めました結果、当第3四半期累計期間の売上高は、1,683,900千円（前年同期比10.4%減）となりました。

#### ②薬物動態事業

ジェネリック製薬企業のみならず新医薬品開発企業への直接営業並びにCRO（医薬品開発受託機関）との連携による営業活動を行いました結果、当第3四半期累計期間の売上高は、262,133千円（前年同期比123.0%増）となりました。

### （2）財政状態に関する定性的情報

#### （財政状態の状況）

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末と比較して707千円増加し、3,398,637千円となりました。これは主に、現金及び預金の増加15,895千円、リース資産の増加27,409千円に対し、売掛金の減少47,587千円によるものであります。

負債合計額は、前事業年度末と比較して197,253千円減少し、828,450千円となりました。これは主にリース債務の増加44,499千円に対し、未払法人税等の減少105,966千円、賞与引当金の減少42,548千円によるものであります。

純資産合計額は、四半期純利益277,207千円の確保により利益剰余金が増加し、2,570,186千円となりました。

この結果、自己資本比率は前事業年度より5.8ポイント増加し、75.6%となりました。

#### （キャッシュ・フローの状況）

当第3四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比して134,104千円減少し、509,722千円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

当第3四半期累計期間における営業活動の結果得られた資金は、359,404千円（前年同四半期累計期間は112,846千円の収入）となりました。主な増加要因は、税引前四半期純利益の計上477,066千円、減価償却費の発生142,477千円等であり、主な減少要因は、法人税等の支払額275,123千円等によるものであります。

当第3四半期累計期間における投資活動の結果支出した資金は、244,852千円（前年同四半期累計期間は62,168千円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出76,873千円、ソフトウェアに係る無形固定資産の取得による支出19,979千円によるものであります。

当第3四半期累計期間における財務活動の結果支出した資金は、248,656千円（前年同四半期累計期間は53,936千円の支出）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出122,200千円、配当金の支払額79,200千円、リース債務の返済による支出47,210千円によるものであります。

（3）業績予想に関する定性的情報

当社の属する医薬品分析のアウトソーシング市場は、製薬企業の外注予算節減の影響等により受注環境は厳しさを増しております。当社は品質・コストパフォーマンス・スピードそして新しいニーズの開発に注力しており、受注機会の確保に努めております。特に今後開発が期待されているバイオ医薬品の試験受注に向けた技術、機器及び細胞培養室の整備等を通して受注拡大を図ってまいります。

第3四半期累計期間において、契約済試験の中止や延期があったものの、売上高はほぼ計画通り推移し、売上原価・販売費及び一般管理費は抑制に努めた結果、第3四半期累計期間における、営業利益、経常利益及び四半期純利益ともに計画を達成することが出来ました。今後も厳しい受注環境が想定されますが、通期の業績予想につきましては、平成21年11月6日に公表致しました業績予想に変更はありません。

2. その他の情報

（1）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

（2）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

（3）継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,059,722	1,043,826
売掛金	643,072	690,660
貯蔵品	19,495	18,365
その他	112,088	119,293
貸倒引当金	△1,266	△1,351
流動資産合計	1,833,112	1,870,795
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	895,512	949,390
土地	263,629	202,888
リース資産(純額)	252,582	225,173
その他(純額)	40,144	51,416
有形固定資産合計	1,451,868	1,428,868
無形固定資産	62,838	45,083
投資その他の資産	50,817	53,181
固定資産合計	1,565,524	1,527,133
資産合計	3,398,637	3,397,929
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	45,556	43,281
1年内返済予定の長期借入金	157,100	179,600
リース債務	69,677	51,040
未払法人税等	18,348	124,314
賞与引当金	32,280	74,828
役員賞与引当金	—	21,338
その他	184,238	135,089
流動負債合計	507,199	629,493
固定負債		
長期借入金	91,600	191,300
リース債務	207,844	181,980
退職給付引当金	21,721	22,749
その他	84	180
固定負債合計	321,250	396,210
負債合計	828,450	1,025,703

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	957,500	957,500
資本剰余金	232,500	232,500
利益剰余金	1,380,232	1,182,225
自己株式	△45	—
株主資本合計	2,570,186	2,372,225
純資産合計	2,570,186	2,372,225
負債純資産合計	3,398,637	3,397,929

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成21年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)
売上高	1,996,996	1,946,034
売上原価	1,090,134	1,175,214
売上総利益	906,862	770,820
販売費及び一般管理費	282,111	291,052
営業利益	624,751	479,767
営業外収益		
受取利息	1,753	838
受取賃貸料	5,516	4,200
違約金収入	4,911	1,456
雑収入	2,761	844
営業外収益合計	14,943	7,339
営業外費用		
支払利息	7,296	8,932
賃貸収入原価	1,956	1,097
雑損失	—	95
営業外費用合計	9,252	10,125
経常利益	630,441	476,981
特別利益		
貸倒引当金戻入額	29	85
特別利益合計	29	85
特別損失		
固定資産除却損	19,220	—
特別損失合計	19,220	—
税引前四半期純利益	611,250	477,066
法人税、住民税及び事業税	214,469	171,602
法人税等調整額	42,978	28,256
法人税等合計	257,447	199,859
四半期純利益	353,802	277,207



(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成21年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	611,250	477,066
減価償却費	114,316	142,477
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△6,039	△1,027
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△34,156	△42,548
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△25,000	△21,338
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△29	△85
受取利息及び受取配当金	△1,753	△838
支払利息	7,296	8,932
固定資産除却損	8,720	—
売上債権の増減額 (△は増加)	39,110	47,587
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,634	△1,129
仕入債務の増減額 (△は減少)	△7,676	2,274
前受金の増減額 (△は減少)	△27,811	△7,071
その他	△58,378	38,174
小計	615,215	642,475
利息及び配当金の受取額	1,753	838
利息の支払額	△7,306	△8,785
法人税等の支払額	△496,815	△275,123
営業活動によるキャッシュ・フロー	112,846	359,404
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△250,000	△150,000
定期預金の払戻による収入	400,000	—
有形固定資産の取得による支出	△189,968	△76,873
無形固定資産の取得による支出	△24,199	△19,979
その他	2,000	2,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△62,168	△244,852
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	30,000	—
短期借入金の返済による支出	△30,000	—
長期借入れによる収入	150,000	—
長期借入金の返済による支出	△97,200	△122,200
自己株式の取得による支出	—	△45
リース債務の返済による支出	△20,936	△47,210
配当金の支払額	△85,800	△79,200
財務活動によるキャッシュ・フロー	△53,936	△248,656
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,258	△134,104
現金及び現金同等物の期首残高	576,858	643,826
現金及び現金同等物の四半期末残高	573,600	509,722

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。